

## 自我機能類型と夢内容の探索的検討

森田修平・岡本祐子・高野恵代・池田龍也

An Exploratory Examination of Characteristic Patterns of Ego Function and Dream Experiences.

Shuhei Morita, Yuko Okamoto, Yasuyo Takano, and Tatsuya Ikeda

The objective of this research was to sort the dreams of examinees who varied along characteristic patterns of ego function and to identify characteristic experiences in the dreams. During this study, we surveyed 128 recurrent dreams, 164 unpleasant dreams and 199 impressive dreams. Five patterns of ego function and dream experience emerged. Dreamers with weak ego function and thin ego boundaries underwent more negative dream experiences. In contrast, those with strong ego function reported very positive dreams.

キーワード : patterns of ego function, experiences of dream

### 問 題

夢 (dream) は Freud,S.以来,心の探究と理解のための重要なテーマであり,夢の機能は心理的な平衡を回復させる試みである (Jung, 1964)。意識と無意識の交流である夢を考える鍵として,その調整役である自我を挙げることができる。自我について, Bellak, Hurvich, & Gediman (1973) は,「自我機能」として 12 の機能を想定し,それを基に,中西・古市 (1981) は,自我機能調査票 (Ego Functions Inventory-2, EFI-2) を作成した。

森田・岡本 (2014) は,その EFI-2 を因子分析し,自我機能因子を「現実性」,「情緒の内的統制 (以下,内的統制)」,「外的接触」,「自律性」の 4 因子にまとめ直した上で,夢への態度および夢の種類と自我機能について検討した。その結果,夢に積極的に関わろうとする人は自律性の自我機能が強く働いていること,繰り返す夢や不快な夢を体験している人は,現実検討や現実感覚に基づく自我機能が低下していることを示した。しかし,森田・岡本 (2014) の研究では,自我機能の強弱のパターンと実際に体験された夢内容の検討までは行われていない。

本研究では,その 4 因子の強弱を元に,夢見者の自我機能の働きの類型を試み,そのパターンと夢内容の関連を探索的に検討する。

### 目 的

特徴的な自我機能のパターンごとに夢見者を分類し,その自我機能群に特徴的な夢体験を探索的に検討する。

## 方 法

**対象者** 森田・岡本 (2014) の大学生 251 名 (男性 151 名, 女性 100 名, 平均年齢 20.5 歳,  $SD=1.19$ ) の内, 調査協力者の内, それぞれの夢内容の報告があった, 繰り返す夢 128 名, 不快な夢 164 名, 印象的な夢 199 名。ただし, 自我機能群の分類に関しては, 調査協力者全員である 251 名を分析の対象とした。

**手続き** 集団質問紙法で行った。なお, 質問紙構成は, ①繰り返す夢・不快な夢, 印象的な夢に関する質問項目 (夢見の時期や内容を自由記述で問う), ②EFI-2 (72 項目, 変則 6 件法), ③フェイス項目とした。

**分析方法** 自我機能群分けについて, EFI-2 得点を標準得点に変換後, クラスタ分析 (ward 法, グループ間平均連結法)を行なった。また, 夢内容については, 自由記述の内容を, 主題に分類し, 出現度数による  $\chi^2$  検定および, 質的な内容の検討を行なった。なお, 主題の命名については, 臨床心理学を専攻する大学院生 1 名に評定を依頼した。評定一致率は 96.53%であった。評定が異なった項目については, 協議の上, 命名した。

## 結 果

### クラスタ分析結果

森田・岡本 (2014) の因子分析によって抽出された, 「現実性」, 「情緒の内的統制 (以下, 内的統制)」, 「外的接触」, 「自律性」の 4 因子をもとにクラスタ分析を行なった。Table 1 および Figure 1 に, その結果を示す。

5 群に分類されたクラスタの 4 因子それぞれにおいて, 分散分析を行なったところ, すべての因子において主効果 ( $F(4,246)=53.59-105.92, p<.001$ ) が見られたため, 多重比較を行なった (*Tukey HSD*)。その結果, 現実性において, 2 群と 4 群, 3 群と 5 群以外のすべての組み合わせにおいて, 有意差 ( $p<.001$ ) が認められた。また, 内的統制において, 2 群と 4 群, 3 群と 5 群以外のすべての組み合わせにおいて, 有意差 ( $p<.001$ ) が認められた。さらに, 外的接触において, 1 群と 4 群, 2 群と 3 群以外のすべての組み合わせにおいて, 有意差 ( $p<.001$ ) が認められた。最後に, 自律性においても, 1 群と 3 群以外のすべての組み合わせにおいて, 有意差 ( $p<.001$ ) が認められた。

以上の結果, および Figure 1 より, 以下の 5 群に分類した。Figure 1 の左から, 1 群は, 現実性, 内的統制, 外的接触が有意に, 2,3,5 クラスタより低く, 自律性に関して 4 より有意に高く, 2,5 より有意に低かったため, 「自我境界脆弱群」と命名した。2 群は, すべての因子が中程度にまとまっていたため, 「自我機能中群」と命名した。3 群は, 現実統制, 内的統制が, 1,2,4 より高くまとまり, かつ自律性が中程度であったため「感情統制群」と命名した。4 群は, 現実性, 内的統制に関しては中程度であったものの, 外的接触が低く, また, 自律性も最も低かったため「防衛的自律性不全群」と命名した。5 群は, すべての自我機能因子が高得点でまとまっていたため「自我機能高群」と命名した。

Table 1  
標準化後のクラスタ分析結果

	現実性		内的統制		外的接触		自律性		人数	%
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
1. 自我境界脆弱群	-1.57	0.85	-1.21	0.76	-1.35	0.64	-0.31	0.83	31	12.35
2. 自我機能中群	-0.32	0.67	-0.36	0.70	-0.01	0.60	0.34	0.62	78	31.08
3. 感情統制群	0.53	0.56	0.73	0.54	0.24	0.62	-0.43	0.64	64	25.50
4. 防衛的自律性不全群	-0.10	0.81	-0.47	0.89	-1.09	0.59	-1.41	0.91	28	11.16
5. 自我機能高群	0.85	0.60	0.64	0.89	1.14	0.61	1.00	0.67	50	19.92
有意差検定	1<2,4<3,5 ( $p<.001$ )		1<2,4<3,5 ( $p<.001$ )		1,4<2,3<5 ( $p<.001$ )		4<1,3<2<5 ( $p<.001$ )			

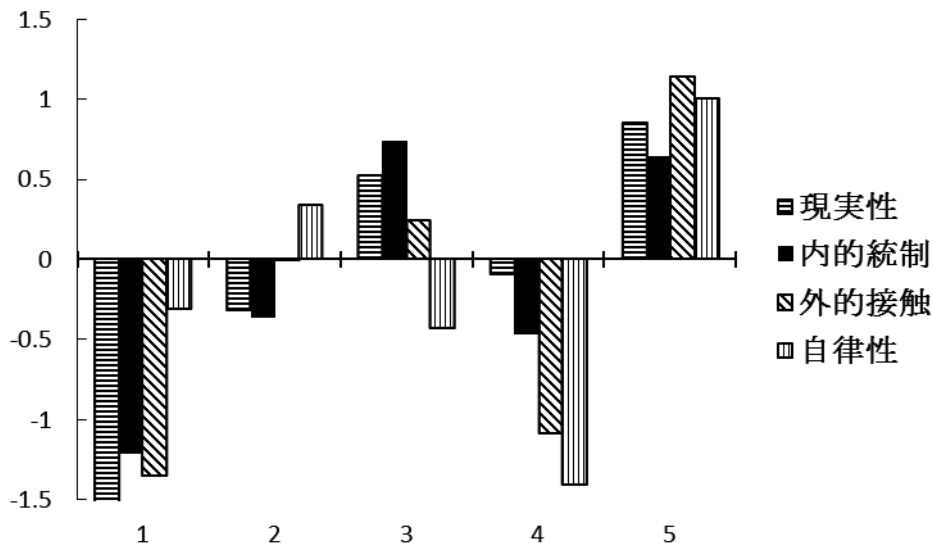


Figure 1. クラスタ分析における自我機能類型

### 夢内容と自我機能群の関係

各種夢内容の記述のあった、繰り返す夢 128 名、不快な夢 163 名、印象的な夢 198 名を分析対象とし、記述された夢をその主題によって 13 の主題に分類した。参加者の所属クラスタごとに、 $\chi^2$  検定により出現頻度を比較した (Table 2, Table 3, Table 4)。

分類した主題は以下のように命名した。なお、分類名末尾の+、-、N は、それぞれ、体験の感情や状況が好ましいものかを示し、ポジティブな場合を+、ネガティブな場合を-、ニュートラルあるいは言及がないものを N としている。

主題「一方的危機」とは、「日本の屋敷みたいなどころでお化けに追いかけられる (No.16,男性, 繰り返す夢)」、「ベッドの上で寝ていて締めつけられて、槍で刺されそうになった夢。刺される前に起きた (No.25, 男性, 印象的な夢)」といった夢である。この「一方的危機」は、何らかの対象

に、夢の中で夢見者の意識がある主体（以下、夢自我とする）が一方的に危機に追いやられる夢である。

主題「対応可能危機」とは、「黒い波（男）と赤い波（女）に追いかける夢。家に入ると助かる。ピンクの波は助けてくれる（No.67, 女性, 繰り返す夢）」、「地元のスーパーマーケットに入ると、店内一面マネキンだらけだった。恐くなって逃げようとしたらマネキンが追いかけてきて、店内にある歩道橋へ上がると両端からマネキンが攻めてきて、どっちにも逃げられん！ってなったときに、気づいたら歩道橋の真ん中に大型バイクがあるのを見つけて、それに乗って歩道橋の真ん中から下に飛び下りて逃走しました。何とか逃げられました（No.61, 女性, 不快な夢）」といった夢である。こちらには、一方的危機と同じく夢自我が危機に遭うものの、何らかの形でコントロールが出来たり、難を逃れられる夢を分類した。

主題「非日常」とは、「自分がベッドの上で小さくなっている夢（No.198, 男性, 繰り返す夢）」、「8畳くらいの真っ白の何も無い部屋でずっと電話が鳴っていて、でもどこにあるか見えなくて、でも出なきゃいけない設定（？）になっていて探し回る夢（No.145, 女性, 印象的な夢）」という夢内容である。この主題「非日常」は、現実では有り得ない体験のうち、上述の危機的状況や後述の「理想・願望」に当てはまらない夢で構成されている。

主題「理想・願望」とは、「部活の試合、勝利した試合総編集。（No.37, 男性, 印象的な夢）」、「好きな人と仲良くなれる夢（No.105, 女性, 印象的な夢）」といった夢である。それが、現実的か非現実的かを問わず、夢見者の理想や願望が反映されていると判断される夢がこの主題に分類されている。

主題「日常（＋，－，N）」は、「家の窓から外を見ていると、桜の木があってそれが咲いて散っていく夢。家の中から見ていたんだけど、たまにアップになって細部までよく見えた。すごくキレイな夢でした（No.48, 女性, 印象的な夢）（日常＋）」、「職場で働いている（No.161, 男性, 繰り返す夢）」、「中学での生徒総会前日に、当日いろいろと不備がある夢を見た。高校でも同じようなことがあった（No.142, 女性, 印象的な夢）（日常－）」といった夢で構成される。非現実的でなく、夢見者が日常的に体験する可能性がある物事にまつわる夢である。

主題「対人関係（＋，－，N）」とは、「今まで知り合ってきた人々と会話する夢。次々に知り合ってきた人々が出てきて楽しく会話する（No.192, 男性, 印象的な夢）」、「高校の時の友達といろんなところに行く（No.42, 男性, 繰り返す夢）（対人関係 N）」、「どういう理由かはわからないが、周りの人々にひたすら非難され続ける夢（No.7, 男性, 不快な夢）（対人関係－）」といった夢である。夢の中で、夢自我が他の人と交流するもの、あるいは夢自我の対人関係を象徴していると考えられるものが、この主題に分類されている。

主題「家族イメージ」とは、「親とまちがえてちがう人についていく夢（No.124, 女性, 繰り返す夢）」、「母親がロボットだったという夢（No.96, 男性, 印象的な夢）」といった家族に関連する夢である。この主題は特に、夢見者の家族のイメージを象徴していると考えられるものである。

主題「自己イメージ」には、「歯がぼろぼろに抜ける夢（No.185, 男性, 繰り返す夢）」、「最近よく自分の体の一部（指先や足先）が溶ける夢を見ます（No.167, 女性, 不快な夢）」といった夢が分

類されている。夢見者自身、特に身体に何らかの異常が起こる夢である。

主題「恐怖」とは、「かまを持った死神の絵をただ見ているだけの夢。なぜかものすごく怖かった (No.166, 男性, 印象的な夢)」といった夢である。上記の主題以外で、夢自我や夢見者が恐怖を感じるもの、夢自我が危機に遭うものがこの主題に分類されている。

以上の主題について、繰り返す夢、不快な夢、印象的な夢についてそれぞれ検討した。また、Table 5 ~ Table 14 は、繰り返す夢を見始めた時期とその見終わった時期、Table 15 ~ Table 19 は不快な夢を見た時期、Table 20 ~ Table 24 は印象的な夢を見た時期の出現度数をまとめたものである。

Table 2  
繰り返す夢のクラスタごとの主題出現度数

	自我境界 脆弱群 (人)	%	自我機能 中群 (人)	%	感情 統制群 (人)	%	防衛的 自律性 不全群(人)	%	自我機能 高群(人)	%	計
一方的危機*	15	71.4	13	33.3	13	37.1	6	54.5	8	36.4	55
非日常	1	4.8	7	17.9	8	22.9	1	9.1	0	-	17
理想・願望	1	4.8	5	12.8	3	8.6	0	-	3	13.6	12
日常-	0	-	2	5.1	3	8.6	2	18.2	1	4.5	8
日常N	0	-	0	-	2	5.7	0	-	2	9.1	4
対人関係N	0	-	3	7.7	1	2.9	1	9.1	0	-	5
家族イメージ-	1	4.8	1	2.6	1	2.9	1	9.1	0	-	4
対応可能危機	1	4.8	2	5.1	0	-	0	-	1	4.5	4
自己イメージ	0	-	3	7.7	1	2.9	0	-	0	-	4
対人関係-	1	4.8	0	-	1	2.9	0	-	1	4.5	3
恐怖	0	-	0	-	0	-	0	-	2	9.1	2
家族イメージN	0	-	1	2.6	1	2.9	0	-	0	-	2
家族イメージ+	0	-	0	-	1	2.9	0	-	0	-	1
その他	1	4.8	2	5.1	0	-	0	-	4	18.2	7
計	21	100	39	100	35	100	11	100	22	100	128

注1 \* $\chi^2=9.896$   $df=4$   $p<.05$  自我境界脆弱群が有意に多い( $p<.05$ )

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 3

## 不快な夢のクラスタごとの主題出現度数

	自我境界 脆弱群 (人)		自我機能 中群 (人)		感情 統制群 (人)		防衛的 自律性 不全群(人)		自我機能 高群(人)		計
		%		%		%		%		%	
一方的危機	8	32.0	30	52.6	13	37.1	7	50.0	11	33.3	69
非日常	2	8.0	8	14.0	6	17.1	0	-	6	18.2	22
家族イメージ*	5	20.0	3	5.3	7	20.0	5	35.7	3	9.1	23
日常-	3	12.0	5	8.8	4	11.4	1	7.1	5	15.2	18
対人関係-	3	12.0	1	1.8	2	5.7	1	7.1	5	15.2	12
自己イメージ	0	-	2	3.5	2	5.7	0	-	2	6.1	6
対応可能危機	0	-	2	3.5	1	2.9	0	-	0	-	3
恐怖	0	-	2	3.5	0	-	0	-	1	3.0	3
その他	4	16.0	4	7.0	0	-	0	-	0	-	8
計	25	100	57	100	35	100	14	100	33	100	164

注1  $\chi^2=11.534$   $df=4$   $p<.05$  自我機能中群が少なく、防衛的自律性不全群が多い。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 4

## 印象的な夢のクラスタごとの主題出現度数

	自我境界 脆弱群 (人)		自我機能 中群 (人)		感情 統制群 (人)		防衛的 自律性 不全群(人)		自我機能 高群(人)		計
		%		%		%		%		%	
理想・願望*	3	11.5	19	28.4	15	32.6	4	17.4	17	45.9	58
一方的危機	10	38.5	14	20.9	9	19.6	2	8.7	6	16.2	41
非日常	1	3.8	6	9.0	7	15.2	3	13.0	6	16.2	23
家族イメージ	3	11.5	5	7.5	4	8.7	5	21.7	2	5.4	19
対人関係N	1	3.8	6	9.0	1	2.2	1	4.3	3	8.1	12
対人関係-	1	3.8	1	1.5	3	6.5	2	8.7	2	5.4	9
日常-	0	-	3	4.5	1	2.2	2	8.7	1	2.7	7
対応可能危機	1	3.8	3	4.5	1	2.2	1	4.3	0	-	6
日常N	2	7.7	2	3.0	1	2.2	0	-	0	-	5
恐怖	2	7.7	1	1.5	0	-	1	4.3	0	-	4
対人関係+	0	-	2	3.0	0	-	1	4.3	0	-	3
自己イメージ	0	-	1	1.5	1	2.2	1	4.3	0	-	3
家族イメージN	0	-	0	-	1	2.2	0	-	0	-	1
日常+	0	-	1	1.5	0	-	0	-	0	-	1
その他	2	7.7	3	4.5	2	4.3	0	-	0	-	7
計	26	100	67	100	46	100	23	100	37	100	199

注1  $\chi^2=10.786$   $df=4$   $p<.05$  自我境界脆弱群が少なく、自我機能高群が多い。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 5

自我境界脆弱群における繰り返す夢の始まった時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	2	5	1	3	2	0	2	15
非日常	0	0	0	1	0	0	0	1
理想・願望	1	0	0	0	0	0	0	1
家族イメージ	0	0	0	0	0	1	0	1
対応可能危機	0	1	0	0	0	0	0	1
対人関係-	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	1
計	3	6	1	4	3	1	3	21

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 6

自我境界脆弱群における繰り返す夢の終了した時期  
(現在見続けている場合は今に分類される) 一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	2	3	2	1	5	2	15
非日常	0	0	0	1	0	0	0	1
理想・願望	1	0	0	0	0	0	0	1
家族イメージ	0	0	0	0	0	1	0	1
対応可能危機	0	0	0	0	0	0	0	1
対人関係-	0	0	0	0	1	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	1
計	1	2	3	3	2	6	3	21

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 7

自我機能中群における繰り返す夢の始まった時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	4	5	2	2	0	0	0	13
非日常	0	4	0	1	0	0	2	7
理想・願望	0	1	0	1	0	2	1	5
日常－	0	0	2	0	0	0	0	2
対人関係N	0	1	0	0	2	0	0	3
家族イメージ	1	0	0	0	0	0	0	1
対応可能危機	1	1	0	0	0	0	0	2
自己イメージ	0	0	0	0	2	1	1	3
家族イメージN	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	1	1	0	0	0	2
計	6	12	5	5	4	3	5	39

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 8

自我機能中群における繰り返す夢の終了した時期  
(現在見続けている場合は今に分類される) 一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	3	4	1	4	0	1	0	13
非日常	0	2	2	0	1	0	2	7
理想・願望	0	0	0	1	1	2	1	5
日常－	0	0	1	1	0	0	0	2
対人関係N	0	0	0	0	2	1	0	3
家族イメージ	0	0	1	0	0	0	0	1
対応可能危機	0	1	0	1	0	0	0	2
自己イメージ	0	0	0	0	0	3	0	3
家族イメージN	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	2	0	0	0	2
計	3	7	5	9	4	7	4	39

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。



Table 9

感情統制群における繰り返す夢の始まった時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	1	7	2	0	0	0	3	13
非日常	3	3	1	0	1	0	0	8
理想・願望	0	1	0	0	0	1	1	3
日常－	0	0	0	1	1	1	0	3
日常N	0	0	0	1	0	1	0	2
対人関係N	0	1	0	0	0	0	0	1
家族イメージ－	0	1	0	0	0	0	0	1
自己イメージ	0	0	0	0	0	0	1	1
対人関係－	0	0	0	0	0	1	0	1
家族イメージN	1	0	0	0	0	0	0	1
家族イメージ+	0	0	0	0	0	0	1	1
計	5	13	3	2	2	4	6	35

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 10

感情統制群における繰り返す夢の終了した時期

(現在見続けている場合は今に分類される) 一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	3	4	1	2	1	2	13
非日常	1	3	1	0	2	1	0	8
理想・願望	0	1	0	0	0	1	1	3
日常－	0	0	0	1	1	1	0	3
日常N	0	0	0	0	1	1	0	2
対人関係N	0	0	1	0	0	0	0	1
家族イメージ－	0	0	0	0	0	1	0	1
自己イメージ	0	0	0	0	0	0	1	1
対人関係－	0	0	0	0	0	1	0	1
家族イメージN	1	0	0	0	0	0	0	1
家族イメージ+	0	0	0	0	0	0	1	1
計	2	7	6	2	6	7	5	22

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 11

防衛的自律性不全群における繰り返す夢の始まった時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	1	2	1	0	0	0	2	6
非日常	0	0	1	0	0	0	0	1
日常－	0	1	0	1	0	0	0	2
対人関係N	0	0	0	1	0	0	0	1
家族イメージ－	0	0	0	0	0	0	1	1
計	1	3	2	2	0	0	3	22

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 12

防衛的自律性不全群における繰り返す夢の終了した時期  
(現在見続けている場合は今に分類される) 一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	1	1	1	0	1	2	6
非日常	0	0	0	0	0	1	0	1
日常－	0	0	1	1	0	0	0	2
対人関係N	0	0	0	0	0	1	0	1
家族イメージ－	0	0	0	1	0	0	0	1
計	0	1	2	3	0	3	2	22

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 13

自我機能高群における繰り返す夢の始まった時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	2	3	0	0	1	0	2	8
理想・願望	0	1	1	1	0	0	0	3
日常－	0	0	0	0	0	0	1	1
日常N	0	0	0	0	0	2	0	2
対応可能危機	0	0	1	0	0	0	0	1
対人関係－	1	0	0	0	0	0	0	1
恐怖	1	1	0	0	0	0	0	2
その他	0	1	0	0	0	1	2	4
計	4	6	2	1	1	3	5	22

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の＋はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 14

自我機能高群における繰り返す夢の終了した時期  
(現在見続けている場合は今に分類される) 一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	1	1	2	0	1	1	2	8
理想・願望	0	1	0	2	0	0	0	3
日常－	0	0	0	0	0	0	1	1
日常N	0	0	0	0	0	2	0	2
対応可能危機	0	0	0	1	0	0	0	1
対人関係－	0	0	0	1	0	0	0	1
恐怖	1	0	0	0	0	1	0	2
その他	0	0	0	0	0	2	2	4
計	2	2	2	4	1	6	5	22

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の＋はポジティブ、－はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 15

## 自我境界脆弱群における不快な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	0	1	2	0	4	1	8
非日常	0	1	0	0	0	0	1	2
家族イメージ-	2	0	0	1	0	2	0	5
日常-	0	0	0	0	1	1	1	3
対人関係-	0	0	0	1	1	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	2	2	4
計	2	1	1	4	2	10	5	25

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 16

## 自我機能中群における不快な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	4	4	6	6	6	4	30
非日常	0	0	0	0	2	3	3	8
家族イメージ-	0	0	1	1	0	1	0	3
日常-	0	0	0	0	1	1	3	5
対人関係-	0	0	0	0	1	0	0	1
自己イメージ	0	0	0	0	1	1	0	2
対応可能危機	0	2	0	0	0	0	0	2
恐怖	1	0	0	0	0	0	1	2
その他	0	0	1	0	1	1	1	4
計	1	6	6	7	12	13	12	57

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 17

## 感情統制群における不快な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	8	1	0	0	1	3	13
非日常	1	1	0	3	0	1	0	6
家族イメージ-	0	0	2	2	2	0	1	7
日常-	0	0	0	1	1	0	2	4
対人関係-	0	0	0	0	1	0	1	2
自己イメージ	0	0	0	0	0	1	1	2
対応可能危機	0	0	0	0	0	1	0	1
計	1	9	3	6	4	4	8	35

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 18

## 防衛的自律性不全群における不快な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	0	1	2	1	1	1	1	7
家族イメージ-	1	1	0	0	1	1	1	5
日常-	0	0	0	0	0	1	0	1
対人関係-	0	0	0	1	0	0	0	1
計	1	2	2	2	2	3	2	14

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 19

## 自我機能高群における不快な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
一方的危機	1	0	2	2	2	0	4	11
非日常	0	0	0	1	3	1	1	6
家族イメージ-	0	0	0	0	1	1	1	3
日常-	0	0	0	1	2	1	1	5
対人関係-	0	0	0	2	0	1	2	5
自己イメージ	0	0	0	0	0	1	1	2
恐怖	0	0	0	0	0	1	0	1
計	1	0	2	6	8	6	10	33

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 20

## 自我境界脆弱群における印象的な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
理想・願望	0	0	0	3	0	0	0	3
一方的危機	0	2	1	1	1	2	3	10
非日常	0	0	0	0	0	0	1	1
家族イメージ-	1	2	0	0	0	0	0	3
対人関係N	0	0	0	0	0	1	0	1
対人関係-	0	0	0	0	1	0	0	1
対応可能危機	0	0	0	1	0	0	0	1
日常N	0	0	0	0	1	0	1	2
恐怖	0	0	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	2	0	0	0	0	2
計	1	4	3	5	3	4	6	26

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 21

自我機能中群における印象的な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
理想・願望	0	0	3	7	4	3	2	19
一方的危機	0	2	3	2	4	2	1	14
非日常	0	1	1	1	1	0	2	6
家族イメージ	0	0	2	0	3	0	0	5
対人関係N	0	0	1	1	2	2	0	6
対人関係-	0	0	0	1	0	0	0	1
日常-	0	0	0	2	0	0	1	3
対応可能危機	1	1	0	1	0	0	0	3
日常N	1	0	0	0	0	0	1	2
恐怖	0	0	1	0	0	0	0	1
対人関係+	0	0	1	0	1	0	0	2
自己イメージ	0	0	0	0	0	1	0	1
日常+	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	1	0	0	2	3
計	2	4	13	16	15	8	9	67

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 22

感情統制群における印象的な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
理想・願望	1	0	3	4	2	1	4	15
一方的危機	1	5	1	1	0	0	1	9
非日常	1	2	1	2	1	0	0	7
家族イメージ	1	1	0	1	0	1	0	4
対人関係N	0	0	0	0	1	0	0	1
対人関係-	0	0	1	1	1	0	0	3
日常-	0	0	0	0	0	0	1	1
対応可能危機	0	0	0	0	1	0	0	1
日常N	0	1	0	0	0	0	0	1
自己イメージ	0	0	1	0	0	0	0	1
家族イメージN	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	0	1	0	1	0	0	0	2
計	4	11	7	10	6	2	6	46

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 23

## 防衛的自律性不全群における印象的な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
理想・願望	0	0	0	2	1	1	0	4
一方的危機	0	0	0	1	0	0	1	2
非日常	0	2	0	0	0	1	0	3
家族イメージ-	1	2	0	1	0	1	0	5
対人関係N	0	0	0	0	0	0	1	1
対人関係-	0	2	0	0	0	0	0	2
日常-	0	0	0	1	1	0	0	2
対応可能危機	0	1	0	0	0	0	0	1
恐怖	0	0	0	1	0	0	0	1
対人関係+	0	0	0	1	0	0	0	1
自己イメージ	0	1	0	0	0	0	0	1
計	1	8	0	7	2	3	2	23

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

Table 24

## 自我機能高群における印象的な夢を見た時期一覧

	幼稚園 以前	小学校	中学校	高校	大学	今	不明・ その他	計
理想・願望	1	1	4	4	4	1	2	17
一方的危機	0	0	3	2	0	0	1	6
非日常	0	1	2	3	0	0	0	6
家族イメージ-	0	1	0	1	0	0	0	2
対人関係N	0	0	0	2	1	0	0	3
対人関係-	0	0	0	0	0	1	1	2
日常-	0	0	0	0	1	0	0	1
計	1	3	9	12	6	2	4	37

注1 セル内の数字は人数を表す。

注2 表中の+はポジティブ、-はネガティブ、Nはニュートラルな夢主題の状態を表す。

## 繰り返す夢

繰り返す夢と自我機能群それぞれの夢主題の出現頻度を、 $\chi^2$  検定を用いて検討したところ、主題「一方的危機」において有意差が認められた ( $\chi^2=9.896$ ,  $df=4$ ,  $p<.05$ )。残差分析を行ったところ、自我境界脆弱群が有意に多いという結果となった ( $p<.05$ )。



## 不快な夢

不快な夢と自我機能群それぞれの夢主題の出現頻度を、 $\chi^2$  検定を用いて検討したところ、主題「家族イメージ」において有意差が認められた ( $\chi^2 = 11.534, df = 4, p < .05$ )。残差分析を行ったところ、自我機能中群が有意に少なく、防衛的自律性不全群が有意に多いという結果となった ( $p < .05$ )。

## 印象的な夢

印象的な夢と自我機能群それぞれの夢主題の出現頻度を、 $\chi^2$  検定を用いて検討したところ、主題「理想・願望」において有意差が認められた ( $\chi^2 = 10.786, df = 4, p < .05$ )。残差分析を行ったところ、自我境界脆弱群が有意に少なく、自我機能高群が有意に多いという結果となった ( $p < .05$ )。

## 考 察

### 各自我機能群の特徴

自我境界脆弱群は、自律性は中程度であったが、それ以外の因子が全て低かった。ここから、内界と外界の区別がつきにくく、かつ、内的な情緒も揺さぶられやすく、また外界への接触も苦手とするグループであると考えられる。本研究の調査対象者の 12.4%がこの群に属した。臨床群を対象に調査を行ったわけではないが、一般の大学生の中にも自我が弱くなっている者が存在することは、注意すべき点であると言えよう。

自我機能中群は、すべての因子が中程度にまとまり、自我機能と言う観点では平凡なグループであると考えられる。本研究の調査対象者の 31.1%がこの群に属した。大学生以後、更に自我の発達が育まれ、自我機能高群へと移行していくのか、このまま中程度の自我機能を維持するかは、今後検討すべき点である。

感情統制群は、現実性と内的統制が自我機能高群を除いた群よりも高く、外的接触、自律性は中程度であった。そのため、現実を把握する力に長け、また、自分自身の情緒に関し、外界から影響を受けにくいグループであると考えられる。本研究の調査対象者の 25.5%がこの群に属した。若干の自律性因子の低さも踏まえてから鑑みると、感情よりも現実的な事象に重きをおきつつ、良くも悪くも生活に対して不安全感を持っている可能性が推察される。

防衛的自律性不全群は、現実性と内的統制は中程度であるが、外的接触と自律性が低かった。そのため、外界に対して防衛的であり、かつ、思うように日々を過ごせていないグループであると考えられる。本研究の調査対象者の 11.2%がこの群に属した。現実性は低くないため、病理として現れることは少ないかもしれないが、基本的に活動場面に対しては回避的であり、対人関係から遠ざかるタイプと言えるかもしれない。自我境界脆弱群と合わせ、不適応を起こしやすい群と言えるだろう。

自我機能高群は、すべての因子が高く、高い自我機能を持つグループであると考えられる。本研究の調査対象者の 19.9%がこの群に属した。特に、外的接触や自律性の高さから、対人場面を好み、なおかつその場で問題や葛藤が生じたとしても、それを自力でコントロール出来る強さを持っていると考えられる。

## 自我機能群と夢体験の探索的検討

各群と、その繰り返す夢、不快な夢、印象的な夢の3種類の夢内容とその特徴を出現度数による $\chi^2$ 検定および、質的な内容分析を行った結果、以下のことが推察された。

自我境界脆弱群は、繰り返す夢において、一方的危機の夢が有意に多く、また、印象的な夢において、理想・願望の夢が有意に少なかった。また、一方的危機の夢に関して、小学校という早い段階から見始めたものの、多くは現在も引き続き見続けているという人や、不快な夢を今体験していると報告した人も多く存在した。以上のことから、自我境界脆弱群は、夢体験として、夢自我が危機に遭う夢を見やすく、また願望充足とも言える夢を見ることは少ない可能性が考えられる。さらに、Fosshage & Loew (1978) は、同じ主題を繰り返す反復夢 (recurrent dream) について、「夢見者の生活において何らかの解決していない問題と関連がある」と述べ、また、Bonime (1962) も、夢見者の未解決のパーソナリティ上の困難さが、同一の象徴の形を借りて夢に現れてくると述べている。以上を踏まえると、自我境界脆弱群は小学生時に無意識より指摘された課題が現在もお達成できていない可能性が指摘でき、自我境界脆弱群の夢体験は、あまりポジティブなものとなっていないと考えられる。

自我機能中群は、不快な夢において、家族イメージの夢が有意に少なく、また、繰り返す夢に関しては、高校生時に一方的危機が主題のものを見なくなるものの、不快な夢に関しては、大学以後のものが多く報告されていた。加えて、高校時の印象的な夢に、理想・願望が多いことも特徴だった。夢体験として、家族葛藤を感じるような不快な夢の出現は少ないと言える。また、夢自我が一方的に危機に遭う夢を繰り返すことは、成長とともに少なくなる可能性がある。しかし、理想や願望を夢に見ていた高校時代を過ぎて、大学に入学すると、不快な夢が多く報告されていた。このような、中程度の自我機能と、様々な環境要因の変化からの影響は、今後検討されなければならない。

感情統制群は、有意に多いあるいは少ない主題は存在しなかった。また、不快な夢に関し、小学生時の夢が多く報告され、一方、大学～現在の時期において報告されたものが比較的少ないことが特徴だった。以上より、感情統制群は、夢体験として、幼少時には、不快な夢を体験しているものの、成長するに従い、その体験が減る可能性が推察された。自我の成長に伴って、Freud の言う、夢の検閲機能が強く働くようになっているのかもしれない。

防衛的自律性不全群は、家族に対するネガティブなイメージを伴った夢の報告が多く、また、印象的な夢において、小学生時、高校生時の報告はあるものの、中学生時の報告がないことが特徴だった。以上から、防衛的自律性不全群は、夢体験として、家族に対するネガティブなイメージを持つ夢を体験することが多い可能性が示唆された。加えて、自分自身や家族関係が大きく変化する思春期に印象的な夢が存在しないことは、この時期の自我が無意識とうまく交流できていないことの現れなのかもしれない。以上から、低い自律性の背景に家族関係が影響している可能性も考えられるが、今後の詳細な検討を必要とする。

自我機能高群は、印象的な夢において、理想・願望の夢が有意に多かった。また、高校以降の不快な夢の報告が多く、印象的な夢も、中学、高校時代のものが多いのも特徴だった。以上から、自

我機能高群は、夢体験として、願望充足など、ポジティブな夢をつかむことが多い可能性が考えられた。また、不快な夢も、思春期を過ぎた高校以降のものが多く報告されたことに関し、牧 (2009) は、不安な感情を喚起する不安夢の臨床的意義として、夢見者の主体性をつなぎとめつつ、自己の不安に関わることを可能にすることであると述べている。つまり、高い自我機能によって、不快な夢をもつかみとり、関わっていく力を備えているのかもしれない。いずれにせよ、高い自我機能を保持することで、夢自体もポジティブなものを掴むことが出来、またネガティブなものも扱える可能性が考えられた。

### 本研究の限界と今後の課題

本研究では、夢を研究するにあたり質問紙調査を行った。これにより、多くの夢を収集することができたが、臨床の場面において夢を活用する際には、夢見者の連想が不可欠である。また、夢見者がどのような経験をし、今までどのように生きてきたかという情報なしでは、より深く夢を味わうことは難しい夢を見る人の夢に対する連想や、その人自身のこれまでの体験を含めた検討が出来ていない。今後、面接調査を行うことによって、より深い質的検討を行う必要がある。

### 参考文献

- Bellak, L., Hurvich, M., & Gediman, H. (1973). *Ego functions in schizophrenics, neurotics, normals*. New York: Wiley.
- Bonime, W. (1962). *The clinical use of dreams*. New York: Da Capo Press. (鏑幹一郎・一丸藤太郎・山本力 (訳) (1987). 夢の臨床的利用. 誠信書房)
- Fosshage, J. L., & Loew, C. A. (1978). *Dream Interpretation A Comparative Study*. New York: PMA Publishing Corp. (フォッシジ, L. A. & ローブ, C. A. 遠藤みどり (訳) (1983). 夢の解釈と臨床 星和書店)
- Jung, C. G. (1964). *Man and His Symbol*. London: Aldus Books Limited. (ユング C. G. 河合隼雄 (訳) (1975). 人間と象徴—無意識の世界— 河出書房新社)
- 牧 剛史 (2009). 不安夢の臨床心理学的意義に関する研究 佛教大学教育学部学会紀要, **8**, 35-44.
- 森田修平・岡本祐子 (2014). 青年期の自我機能と夢への態度および夢体験の関連 心理臨床学研究 **32**(1), 4-15.
- 中西信男・古市祐一 (1981). 自我機能に関する心理学的研究—自我機能調査票の開発— 大阪大学人間科学部紀要 **7**, 189-220.